

横町荒神町伽藍町等ノ町筋アリ南溝口ヨリ北ノ溝口迄四町
五十七間實曆四十年ノ考里俗ノ説ニ長須ニ人家ノ始ハ人皇七
十八代 二條帝永曆元年扇崎ヨリ宗海通了通甫ト云三人ノ
者始テ此海濱ニ居テ移セシヨリ人家繁榮スト云傳テ

御高礼場 十一枚立

長洲浦上御番所 上番一人手附下役二人

長洲浦遠見御番所

御茶屋

松原 海濱ニアリ竪五百六十間

松原 大明神松原ト云竪二十間横十三間里老ノ説ニ長洲ノ古塘ハ

慶長十二年ニ築キ松山ハ翌十三年ニ植之新塘ハ延寶四年ノ秋築

クト云

腹赤演 長須村ニアリ長須ノ事釋日本紀ニハ長渚トアリ舊記ニハ

長洲今ヤ此土地ニアハ長須ト書クト云釋日本紀ニ云ル 景行帝

腹赤魚ノ古事腹赤村名石大明神ノ條下ニ出セシ故于此省ク是レ

腹赤御贄ノ始也毎年節會ニ可供由定置ル元日ニ來ルヲ難ケレハ

七日ノ節會ニ用ラル七曜御曆水様腹赤奏ナトヲ諸司奏ト云江家

次第云腹赤奏若連期不參則七日奏之若會卯日卯杖奏等也ト云々加茂暢明カ

四季物語ニ曰國栖立樂腹赤奏ナト皆神々レキ例レナルヘシト記

タルハ是也拾遺集清原元輔腹赤ヲ詠スル歌ニ

みよし野も若菜つむらんこれとまのひはらかすみて日數へぬれハ

音塵集衣笠右大臣

四方の海波まついなれ沙代なきハ腹赤の贄とも備ふなり

山家集ニ云筑紫に腹赤也申魚れ釣をハ十月一日にねろすなまこ

こすに引あけて京へハ登せ侍る其釣れ繩造りに引渡して通る船

れとなこに當りぬるといりこちりよこてかまけうましく申てむ

つらしく侍るなり其心を讀む西行

腹赤つる大にたさき乃うけなこに心けつすきんじを思ふ

近世阿野大納言ノ歌アリ

立歸ひししれ沙代乃春とてやそなるらの腹赤なるらん

腹赤ノ説區々也一説 天智帝ノ時筑後國江崎小佐島ヨリ腹赤ノ魚ヲ獻スト云一説 聖武帝ノ時自太宰府貢之ト云一説大和國吉野ヨリ國栖翁ウクイト云魚ヲ獻ス腹赤贄ノ始也ト云一説腹赤魚ハ肥後國宇土郡長濱ヨリ獻ス魚ハ鱒也ト云一説江魚也ト云又腹赤魚ハ石鰻魚ヲ云ト記シ腹赤ハ魚ノ名ナリト云鱒ト云ト此諸説何レカ不知是而レモ當國ニ傳ル説ハ昔日長洲腹赤ノ邊ニ井上眞名ト云者アリテ 景行帝長洲腹赤ノ濱ニ御船ヲ寄ラレシ時鯛ヲ獻タリト云傳ヘ今ニ至テ腹赤魚ト稱レ濱ニテ燒キ商賣ス當國名産ノ一也出所ニヨリテ腹赤ノ御贄ト唱レハ強テ鯛鱒江魚等ニモ不可限何魚ニテモ此所ヨリ出タルヲハ惣テ腹赤ノ魚ト云ヘシ宇土長濱ヨリ獻セシ魚ヲ腹赤ト云ヘキ義ナレ又腹赤ノ濱ニ供御ノ池ト云所アリ上古 帝ヘ供御ヲ備ヘタル所也ト云殊ニ腹赤村ニ

社ヲ建テ 景行帝ヲ名石大明神ト祀リ陸宮ト云帝妃日向御刀媛ト同所ニ女石大明神ト祀リ沖ノ社ト云又其王子四人ヲ四王子宮ト崇祀リテ富村ニアリ思フニ長須長濱ノ草字相似タル故誤レルカ又或説腹赤ニテ釣タル魚ヲ宇土ニテ獻シタルニヤト云リ而レモ宇土玉名境遠シ且長濱モ漁ノ地ニテ魚鼈多シ何ソ十餘里ヲ隔テ魚ヲ求メヤ風土記ハ 元明帝ノ勅ニ依テ記セシ書ニレテ當國ノ事實ニ符合セルヲ以テ倍々信用スルニ足レリ前條腹赤村ノ條ノ説ヲ略載之此篇ハ長須腹赤濱ト云所ニテ所アルコト非ス
(補)事蹟通考編年考徵卷一 景行帝十八年ノ條ノ畧ニ云五月壬辰

朔從葦北發船到火國六月三日癸亥自高來縣肥前國今高來郡渡玉杵名邑云々先是皇船泊長渚濱

肥後風土記曰釋日本紀引之玉名郡長渚濱在郡西昔本足彥天皇誅球磨噲噉還駕之時泊御船於濱云々又御船左右游魚多之梓人吉備國朝勝見以鈎釣之多有所獲即獻天皇勅曰所獻之魚此爲何

魚朝勝見奏申未解其名正似鱒耳歷御覽曰俗見多物即云爾倍
佐爾今所獻魚甚此多有可謂爾倍魚今謂爾倍魚其緣也

按ルニコソ腹赤魚ノ權輿ナリ其事詳ニ天正十五年ノ條ニ著
ハス

天皇在長渚濱之行宮

肥前風土記曰高來郡昔者纏向日代宮御宇天皇在肥後國長渚
濱行宮賢此郡曰云々

按ニ長渚濱行宮ノ遺蹤今不詳竊ニ考ニ腹赤村ノ内沖洲ニ
景行天皇ヲ祀レル祠アリ名石宮ト云四皇子宮トテ長洲ニア
リ 天皇ノ皇子四人ヲ祀ルト云ヘリ長洲ハ沖洲ヨリ一里許
南ニアリ腹赤村ニ御腰掛石ト云アリ土人相傳フ 天皇警驛
ノ所敢テ糞穢セス又泉アリ極テ清潔御供水ト云衆皆畏敬ス
疑クハ行宮ノ迹蓋此邊ナラン風土記ニ長渚濱トス渚ハ洲ト
通ス 皇朝須ト訓ヌ乃チ今ノ長須ナリ古ハ腹赤邊迄チカケ

テ總名ヲ長洲浦長洲濱ト云ナリ

(補)全書編年考徵卷二曰天平十五年癸未春正月十四日甲寅太宰府

始供腹赤魚

公事根源元日節會條曰腹赤乃贊じて魚を筑紫より奉るあり
昔もやかて節會ふとに供しけるよや腹赤の食糶とてくいさ
したるを皆取渡して食けり 景行天皇の御宇筑紫乃國宇土
の長濱にて海人は是を釣て奉る其後 聖武天皇乃御時天平十
五年正月十四日太宰府より是を奉りけるよりして年毎乃節
會に供すへきよし定め置きたるあり腹赤とハますと申魚の
事あり

年中行事奏腹赤贊條曰官曹事類云供腹赤魚事始自大足彦天
皇御代歟肥後國風土記於長渚濱得之棹人釣之其名曰鱒麻若
遲參者七日奏之

江家次第曰元日節會腹赤奏若遲期不參拾芥抄亦同之

按ニ腹赤魚ハ 景行天皇御時ニ濫觴ス 天皇長渚ノ腹赤ニ
御船ヲ寄ラレシ時ヨリノ遺風ナリトテ今ニ至ル迄腹赤村ノ
漁民鯛ヲ釣スリテ以テ自他ニ鬻ク是ヲ腹赤鯛ト云此國名産
ノ一ナリ其後天平十五年太宰府始テ之ヲ獻ス以往毎歲元日
ノ節會ニ腹赤魚ヲ供ス以テ恒例トス 腹赤賢國史所々載之類
聚國史延曆二十五年五
月己卯停諸國雜費起不御殿罷腹赤奏百練抄及玉海日元曆元
年正月辛卯朔以亂 朝廷陵夷ノ後此奏永ク廢絶ス寛永年中
忠利君阿野大納言實顯脚ニ就テ腹赤鯛ヲ 後水尾上皇ニ獻
ス 上皇深ク嘉納ス

又按ニ公事根源ニ宇土郡長濱トス如何訛リヤ又魚ノ事ヲ
鱒トシ或ハ腹ノ赤キ魚トシ鱒ノ字ヲ用ヒ或ハ江魚又石鯛魚
トス然レモ和名抄ニ鱒一名赤魚トアリコレ鯛ノ事ナルカ
畢竟腹赤村ヨリ出ル故地名ニ因テ腹赤鯛腹赤魚トハ云也腹
ノ赤キ魚ト云ユトニハ非ス又或曰風土記可謂爾倍魚爾倍ハ

贅ナリ故ニ腹赤贅ト云

(補)肥後事蹟考證卷二腹赤ノ條ニ曰 翁巷云風土記等ノ事ハ前項記
スル拾遺集物名 腹赤 元 輔

拾遺集物名

腹赤

元 輔

とよし乃若菜摘らんまきもくのひえらうすて日數へぬきハ

年中行事歌合に

腹赤御贅

二位中將

初春の千代のさめしのなかにまにつきとらかも我君のため

公事根元抄曰云々 前コ出ツ
故ニ略ス

按ムに年中行事歌合公事根元等ハ宇土郡長濱ト記シ歌にも
あつよめハ皆倅事也腹赤ハ事跡ハ今も玉名郡長洲に腹赤
邑ありて 景行天皇乃社有名石明神ト稱ム乃乃揖人朝勝見
の子孫代々相繼てかの村に住めを此所乃浦人今も小鯛を焼
て商物とすまきを腹赤鯛といへる鱒を用るまじハ未だ聞傳
らね又宇土乃長濱も漁乃地なきとも腹赤の事跡ハ此所にあ
らず風土記を證として年中行事公事根元等の説あやまき

を知へしまゑ風土記にも其魚のかたち鱒に似たりと云そこ
いへ此まゝに鱒ふりと云いそいそいそに年中行事公事根元
等にたゝに鱒の事といへるをとりたり云々

(補)本書宇土郡ノ部長濱ノ條下ニ忠利君寛永年中腹赤贅ヲ仙洞へ

獻セラレシキノ阿野大納言殿ノ書面ヲ載ス今爰ニ補之禽老曰阿野大

納言ノ書面各記ニ得テ聊カ本書

ト異ナリテ見テ故ニ今之ヲ改ム

阿野大納言殿よりの返書

舊冬沙狀具致拜見花柳 仙洞へ腹赤贅沙進覽花則舊冬披露
仕花被成沙満足花旨能く可申達由 仰花珍敷儀ト被仰花而
沙感不斜花我等迄之女房奉書被出花條則田中又助へ相渡進
入花此奉書運出花而又助留置花可預其沙心得花此腹赤之
事久敷無之儀沙再興近頃目出度存花 聖武天皇之沙時元日
節會ニ被供花由公事五十番歌合ふと云沙座花肥後國宇土郡
長濱より上り花由相見へ今度のを長須と承花定而長濱と云

所も可有沙座と存花

初春の千世のよめしの長濱につくる腹赤もこの君のよめ

右公事五十番歌にて花可爲沙存知花得共書付進入花拙者

當年元日之試筆ニ仕花

立歸る聖老沙代老とてや花なるは小老をらうららん

愚詠乍憚掛沙目ヤ花祝儀計ニ仕花沙汰被成間敷花委細ハ

又助ニヤ花間不能一二花恐々謹言

正月十五日

阿野大納言

細川越中守様 尊報

向々腹赤沙進覽珍敷存花奇特成事ニ仰存花網人共此元取沙
汰仕花鳥幅子赤襖よて取ヤ花由さてく 嚴重成儀花新着之
沙慶不可有盡期花三齋老へ者沙心得可被下花以上
或書に云阿野の大納言殿乃執奏せ給むしに とらといとく
えてさせ給ひけると花其節出されりける女房の奉書乃文に

肥後の少將よりをらかなのよしめて進上せめつらしくれりし
先をせむよく心得てやうよしあふりしこ

四王子山

景行帝ノ皇子四人ヲ四王子宮ト崇祀ル

日本紀ノ景行帝
皇王火ノ國別ノ

始祖也トアリ此四
王子ノ内ナルヘ其社地ヲ四王子山ト云檜垣集檜垣カ歌ニ四王
子山ヲ題ニテ

老ぬむを年をかゝしてありぬへしとさうし山の人に見ゆきハ

ト詠シタルモ此所ナリト云リ筑前ノ具原氏ノ説ニハ此歌ハ筑前
國四王子山ヲノ歌ナリト云リ

味齋陳述畧志ニ肥後風土記ヲ引テ 景行帝ノ皇子四人ヲ祭ル所

トテ四王子山アリト記セリ

四王子宮

社八松田志摩下
社八本田三河

齋場所日輪大神宮末社勸請神殿幣殿拜殿瑞

籬石鳥居

高一丈五
尺横八尺

社内攝社相殿阿蘇住吉天照大神春日熊野若一

王子松尾大明神祇園午頭天王稻荷大明神相殿天満宮地神御供屋

籠リ所等アリ社記云 一條院永曆元年九月十五日筑前國御笠郡

四王子嶽ヨリ長洲へ來現依之今ノ社地ニ奉遷宮長洲町ノ産神也

社司前々ヨリ社内空地ニ在居レ下社人ハ町並年貢地ニ居レリ云

々當社ノ産子從前々水魔ノ難無レ又隣ノ喧フコトナシ惣レテ蛇

蝎適々社前ニ來ルコトアレハ動クヲ得ヌ里俗之ヲ見聞スル者

甚々異事ナリトス川守隣ノ符アリ

(補)大石真麻呂氏曰 一條院永曆元年トアルハ 二條院ナルヘシ

年號相違ス依之思フニ檜垣カ老ぬむをノ歌ハ具原氏ノ説宜レ

カルヘシ檜垣老年ノ頃ハ 圓融帝ノ御宇ノ初メナリ四王子宮

當地來現ヲ 二條帝ノ永曆元年トスレハ檜垣ハ來現ヨリ凡二

百餘年前ノ人ナリ云々

洲崎大明神社 鹽濱ニアリ

正善寺高良山 或毘正禪寺禪洞家飽田郡柿原村天福末寺永祿年中

建立之開山照安禪師也小代氏領知ノ時數頃ノ寺領等アリ小代家

衰弊ノ後寺家頽敗剩へ正保年中及火失廢迹トナル里俗寺號ヲモ

不稱藥師堂ト云リ延寶年中寶泉ト云僧此堂ニ在住レテ再興之依

願如舊正善寺ノ號ニ復ス年貢地也

西光寺 真宗西派府ノ西光通寺慶安五年通寺トナル年貢地也

三寶寺 真宗西派同郡溝上村光明末寺年貢地ナリ

清臺寺 真宗西派府ノ西光末寺也始土宗ノ古迹ト云開基等不分

明一堂ニ本尊阿彌陀佛ヲ安セシテ富寺ノ先祖清閑ト云者草堂ヲ

結ヒテ安置シ後年復及退轉シテ天和二年依願改真宗年貢地也

阿彌陀堂 觀音堂 地藏堂 六地藏

(補)古塔調査録曰長洲町字上二丁目十字街ニ古塔アリ臺ハ數箇ノ

石ヲ以テ築キ上ニ角石二層ト平圓ノ石ヲ積ム上層ノ角石四方

ニ銘アレテ處々湮滅シテ讀ガタシ由緒モ又詳カナラズ其殘缺

ノ銘左ノ如シ

今此三界 旨修是 臥聞誌白

皆是我ノ 以何令衆生 難

東 南 得入ノ威 難

面 果 即成就佛 面 花 安

方佛寺

北 有ノ法 北面 明德辛未年

南 方ノノ 南 八月廿四日

佛方便

長須村ノ内 牛水村 高七百四十六石五斗餘

鉾大明神社 社人弘伊豫掛持 集説記四五矛明神社

權現社 觀音堂 牛水菴

野原 藏満村 高七百零七石九斗餘

藏満城迹 城主姓名年代等不分明

(補)翁卷云小代家系圖ヲ閱スルニ平内左衛門尉重俊ノ男小代右衛門次郎重泰ノ四男孫四郎行高野原莊藏満村ヲ領シ藏満ヲ以テ

家號トス云々因テ考フ此城跡恐クハ行高其子四郎次郎泰高在
居セシナルヘシ

八幡四ノ宮 社司月田石見孫特 或記四ノ宮大明神社野原八幡宮ノ四ノ
宮也

野原 觀音堂二字 阿彌陀堂

一部村 高千四百三十石二斗餘向一部村ト云小村アリ中一部村四百
三十八石八斗餘向一部村九百九十一石四斗餘

八龍大明神社

三寶寺迹 本尊藥師佛一堂ニ安ス

全 増永村 高八百四十五石九斗餘向増永ト云小村アリ

天満宮 社人月田石見孫特

猫宮 何レノ比ヨリ尊崇ト云フヲ不知農家ノ内ニ一石アリテ神躰
トス鼠ヲ鎮ル符ヲ出ス豊薩記等ニ天正ノ比龍造寺隆信軍士ヲ富

國ニ遣レ艦ヲ着テ萬田猫宮ヨリ取上ルトアルハ此邊ノ事歟

浦川 小川也増永浦ヨリ出成満川ヘ流入ル

里數木 長洲札ノ辻ヨリ一里也島原城主雷今ハ戸田東都通行長須
ヨリ陸路筑後三池街道筋故設ルト云

正樂寺 莫宗西派京興正末寺寛永九年開基之年貫地也

觀音堂二字

全 荒尾村 高八百四十石五斗餘里俗上荒尾村ト云

成満川 前條水島村ノ條下ニ出ツ

池河原 山間ニ田水ヲ蓄ル池アリ八町四方アリト云

松原 海濱ニアリ正保四年ニ植付ル

大人足籠 山間ニアリ所以ヲ知ス

新松原 海濱ニアリ豎三百間横四十間

權現宮二社 社人月田石見孫特 一記靈野權現宮兩社

普賢寺迹 本尊觀音一堂ニ安ス宗旨等不分明 近世宮内田目村
淨業寺掛持トス

往相寺 莫宗東派京本願末寺承應元年開基之年貫地也

荒尾村 高六百五十一石七斗餘里俗下荒尾村ト云本村ト云小村アリ
星形山城迹 文治年中小代八郎行平下向レテ築之居城トス故ニ稱

シテ星形山ト號メ後ニ小代家臣平山金七惟久ヲ城主トス
(補)翁巷云小代家系圖ニ依リテ考ルニ小代八郎行平肥後ニ下向ノ

事不見行平ノ孫平内右衛門尉重俊始テ肥後玉名郡野原莊地頭

ニ補セラレ重俊ノ三男八郎左衛門尉泰經野原莊荒尾村ヲ領レ

荒尾ヲ以テ稱號トス云々然ラハ泰經此處ニ在居セシ故星形山
ト稱スルカ

天神宮二社 辨才天堂 東光寺迹 二迹ニ宗旨年代等不分明

野原莊 宗福寺迹 高五百五十五石五斗餘

六反城迹 本在廣サ一反十四步竹林也二ノ在モ一反十四步其間深

サ三四間幅七八尺ノ堀切三ノ在外モ堀ノ迹アリ城主姓名不分明
里俗ノ説小代氏ノ家臣領知六反ヲ領レテ在城セシ故六反ノ城ト

稱スト云城ノ四方ニ空壕ノ迹アリ

八龍大明神社 祭九月五日 社人月田石見 勸請ノ年月不分明神体ハ十一面觀音也里

老ノ説當郡野原八幡宮始ハ當所ニ勸請因テ地名ヲ宮内村ト號ス
于今次郎左追左等ハ其時ノ祠官ノ宅地也其后平原曠野ノ野原ニ

遷宮アリテ即チ野原八幡宮ト號レ追々民家出來テ野原村ト稱ス
八幡宮當地鎮坐ノ始ヨリ月田大炊ト云ニ社司屬添奉リテ代々社

官ノ長タリ月田彈正 始名新カ時女一人アリ 荒尾村へ移リ養子シ
テ子孫在于今往昔ハ月田村ヲ領セリト云代々八幡宮ノ社司也

觀正寺迹 或云觀照寺宗旨等不分明本尊釋迦一堂ニ安ス此廢迹ノ
廻リニ亘リ三四尺深三間可リ流レ甘間可リノ堀アリ大堀ト云

藥師堂 本尊ハ慈覺大師ノ作佛ト云

辨才天 六反城本丸ノ迹竹林ノ中ニ大柀樹アリシカ明和元年ノ秋
大風ニ碎カレシ故此柀ヲ賣テ里老一尺半ノ石室ヲ設ケ辨才天ヲ

安セシト云

宮内出目井 高二百九十九石三斗餘

淨業寺明向山弘藏院 土宗筑後善導末寺 後深草帝實治二年小代

八郎行平孫國平カ子小代平内右衛門尉藤原重俊國平云小代系國平子

小代家代々ノ古墳且ツ鎌倉將軍三代ノ五輪石塔アリ年貢地也小

代家石碑ニ今ニ存セルモノ五十基計リソレモ銘文不分明今其内

ニテ銘文存セルモノナ左ニ掲ク

五輪高八尺許宗棟天文廿一日壬寅 五輪高六尺許宗喜禪定門紀年不

同高六尺許妙圓禪定尼天文十四年六月三十日 同宗意禪定門永祿六年

同宗匡孫子妙珍九月十八日死 同妙秀禪定門文應三年八月廿七日逆

同妙慶禪女天文廿一日壬寅 同妙芳禪女紀年不明

同妙心壽位紀年不明 同妙西壽位天文廿一日

同妙宗禪定尼紀年不明 同宗空禪定門天文九年庚子三月十八日

同願空居士永正六年五月十四日

同妙義禪定尼永正十五年九月九日 同妙宗禪定尼永正十五年九月九日

同宗閑禪門康暦九年己未六月廿六日 同妙悅禪尼大永十五年正月

同藤原義宗禪尼○丁酉十月廿七日 日子時逝去正平十二年

同沙彌宗圓四月十七日 同圓證上人永正八年辛巳二月七日

同善空上人長祿四年七月七日 同善壽上人文應六年甲午春領正月

同富山現住善怡和上永正二年乙丑秋彼岸 野面石空觀和尚長十三年

釋迦佛石室銘大永十年丁亥八月 其外高六七尺ノ五輪石塔五六十基銘文消滅ス故ニ不記之

(補)翁巷目前項石碑二十五基ノ銘小代家系圖ト照合シ其靈ノ誰人

タルヲ知ルモノ二基アリ即チ左ニ再ヒ記ス

第一基 宗棟天文廿一日壬寅

小代重俊九代孫左近將監貴弘之碑

第十二基宗空禪定門天文九年庚子三月十八日

右貴弘之子刑部大輔重忠於木部之碑

此外系圖ニ不見然ルニ右古墳ノ内四百年前明治十六年ヨリ算ニ係ルモノハ古塔調査録ニ詳記アリテ聊異ナルアリ依テ重複ヲ厭ハス全文ヲ左ニ列記シテ參考ニ供ス

弘安ノ塔一基佛石ハ壺形コシテ中央銘曰右志者焉比丘○連阿彌陀佛聖靈出離生○○極○樂頓證善○○○法界衆生○○○利益造立如右弘安四年九月廿七日

翁巷按ニ小代平内右衛門尉重俊法名佛蓮寶治元年任野原莊地頭職因テ來住ストアリ寶治元年ヨリ弘安四年ハ相距僅カニ三十五年也此銘文中比丘○蓮ハ佛蓮ノ別脱セルニハアラスヤ果シテ然ラハ此塔ヤ小代家祖重俊ノ石碑ナルヘシ推測ノ異考ト雖モ記シテ後考ヲ待而已

永曆五輪塔一基 銘曰宗珍居士 永曆二年庚申五月五日
永和右同塔一基 銘曰宗義禪門靈 永和四年戊午十月十日逝

去

正平右同塔四基 銘曰沙彌尼法○ 正平八年八月○日
銘曰沙彌崇圓 正平八年四月十七日本書ニ沙彌宗圓トアリ

銘曰沙彌宗○ 正平十二年丁酉以下不見
銘曰藤原義崇禪尼歳七十五九月晦日子刻逝去 正平十二年丁酉十月廿七日造立之孝子本書ニ義宗トアリ

康曆之塔一基 銘曰宗開禪門 康曆元年己未六月廿一日本書ニ

永享之塔一基 銘曰宗天禪定門 永享六年正月十九日
長祿之塔一基 銘曰善空上人 長祿四年庚辰二月七日死去
文明之塔一基 銘曰善壽上人 奉造立逆修石塔一基皆文明

六天甲午春本書ニ春頌アリ
鎌倉將軍三代古墳 中央高八尺餘無銘賴朝卿ノ墓左高サ七尺餘實朝公ノ墓右高サ同ノ賴家卿ノ墓ト云小代氏富寺ニ此墳ヲ築キ尊

崇アリ若干ノ田園ヲ寄附シ當寺ヨリ四方八町ニ傍示ヲ立ツ北今

傍示下馬石ト云 土俗ノ説ニ將軍家ノ石塔並下馬石ハ無銘ニスル
 故實也ト云寺内ニ不動堂アリ正月七日ヨリ五節日毎ニ祭ト云
 一説ニ小代八郎行平同小太郎俊平同平内左衛門尉重俊寶治元年
 下向云々寺地年貢地也

妙智寺迹 禪刹ノ迹ト云一堂阿彌陀ヲ安ス明珍寺迹モアリ不分明

穴觀音 始ヲ知ラス

下馬石二箇所ト傍示石 里俗長刀石ト云形長刀ニ似タリ古ハ東西南

北ノ四邊ニ有之淨業寺内ニ三將軍ノ靈墳アル故寺ヨリ外四町ニ

建之無銘也東ハ何レノ處カ不知之南ハ近世マアアリレカ用水石

ニトレルヤ二十箇年來見ヘス西ノ下馬石ハ大島街道松原ニアリ

島原侯通行ノ時ニ家士等多クハ此 又北ノ下馬石ハ万田村ト當村

ノ間畑地ノ畔ニ立リ何レモ地ヨリ高サ五尺幅二尺可リレノキ立

ヲ薄キ石也依テ俗ニ長刀石ト云將軍家ノ下馬札石故銘文ナシト

云

野原莊

万田村 高六百八石三斗餘

境崎下御番所 筑後國境ノ下番所也大島浦上番人支配ノ下番府ヨ

リ高瀬築地金山野原河登増永荒尾通十一里

万田山 蟠根十二町山形高二町五反高一町松アリ

袴嶽 万田山ノ續ニケ所ニ筑後三池境近所ノ山也

万田城迹 或云袴嶽城山城也今ヤ萱野東西四百六間南北廿四間曲

輪五百二十間東高五十五間西ハ尾續松山也南高百二十間北高百

四十間文治ノ比小代八郎行平下向レテ此城ヲ築キ居レリ知行八

百三十町ヲ領ス今ノ高ニシテ二万九千八百石右ノ内八十町高ニ

シテ一万石 此石高ハ筑後國三池郡ニアリト云

宮崎大明神 社人月田石見靈驗 或記宮島大明神

阿彌陀堂 觀音堂

万田村内

原万田村 高四百六十四石九斗餘西原村松葉村等ノ小村有

松葉口下御番所 當村向部田ニアリ大島浦上番支配ノ下番二人在

衛ス府ヨリ高瀬荒尾通り十里半

天照太神宮 社人弘伊

妙見社 今ヤ破壊セリ

東光寺跡 宗旨等不分明一堂ニ薬師ヲ安ス

阿彌陀堂

六地藏 翁巷云古塔調査録ニ六地藏アリ本書ニ云ルモノナルヘレ

因テ爰ニ補記ス

(補)古塔調査録曰原万田村字松葉ニ六地藏ト稱ス古塔一基アリ石

六角ニシテ高サ凡二尺五寸餘頂ニ凡二尺ニ一尺竿石ノ銘ニ奉

造立六道能化地藏尊蓋石ノ四方梵字アリ其中ニ奉造立石塔一

基善根位諸佛之本休衆生成佛直路也又一方梵字ノ中ニ懺法講

人數次第以上廿三〇トアリ此左右ニ人名アリテ不明其全キモ

ノハ則

慶壽宗閑 全栢慶秀 造主現慶 椿〇永珠 岩尾大膳亮

○田兵部尉 道釜道龍 宗秀禪門 ○泉州 教壽

昔延徳四年壬子卯月吉日敬白

備考云此塔由緒不詳石碑ノ面ニ彫刻セシ梵字ノ傍ニ存セル名

ヲ以テ考ルニ所々剝落テ十五名ノミ彷彿ト見ヘテ殘ノ名讀ヘ

カラス云々

野原莊
大島村

高四百七十五石八斗餘里俗大島町ト云府ヨリ十一里高瀬町

ヨリ五里富町南ノ構口ヨリ北ノ構口迄三町五十一間竈敷七

十五筑後國三池領早米來村ヘノ道筋國境迄九町アリ

大島山 蟠根五町山形高一町五反高四十間松アリ

虚空藏山并岩ヶ崎 筑後三池領早米來村ニ境ヘル海岸ノ山也松櫻

等甚々磯馴タリ頂ニ虚空藏菩薩降臨ノ迹アリテ今ハ二三間南ニ

堂アリ境ノ北ハ三池早米來村人家七十軒計リアリ山上ヨリ三池

領不殘直下ニアリ北ハ筑後三ツ塚山見ヘ柳川領ノ内久留米領ノ

山肥前佐賀領島原領諫早ナト北西南ノ海上眺望絶勝ナリ西ノ麓

ハ渚ニテ岩石濤ニ洗ハレテ膳ヲ並ヘシ如ク幅二三十間廣四五町許リ俗ニ膳立岩ト云北ハ早米來村ノ内ニ其間ニ大釜石トテアリ此所ヲ岩ヶ崎ト云無類ノ奇觀絶景也

御境木 肥筑ノ境府ヨリ高瀬荒尾通リ十一里
御高札場 十一枚立

大島浦上御番所 上番一人在衛ス府ヨリ木葉高瀬荒尾通リ十一里手附下番三人町廻役二人勤之

大島浦遠見御番所 海塘ニアリ

太神宮 龍王堂

專行寺 眞宗東派府ノ延壽末寺寛文五年開基年貢地也

能滿虚空藏堂 虚空藏山ノ頂ニアリ俗談云往日虚空藏菩薩星ニ現シテ此山上ニ降臨アリ即チ其所ニ堂宇ヲ建ツ能滿虚空藏菩薩也然ルニ其後海邊ニテ風強ク每度大破轉倒スル故少シ南ノ方今ノ所ニ移スト云諸願成滿靈驗日新也ト云ヘリ一説此佛像空中ヨリ

此岩ノ鼻ニ飛入り給フト云

觀音堂

○附錄

三代實錄曰貞觀十七年六月二十日太宰府告ヌ肥後國玉名郡倉上大鳥二集リ西ニ向テ鳴トアリ往古郡々ニ倉舍ヲ建テ天子ニ納ル米穀ヲ蓄積スト云ヘリ此倉ノ跡不分明

校訂補肥後國志卷之九終

明治十七年二月廿八日出版屆

定價金三拾一錢

明治十七年八月二十日出版

著者

森本義治

熊本縣肥後國合志郡
大津町三拾八番地

出校
版補
人兼

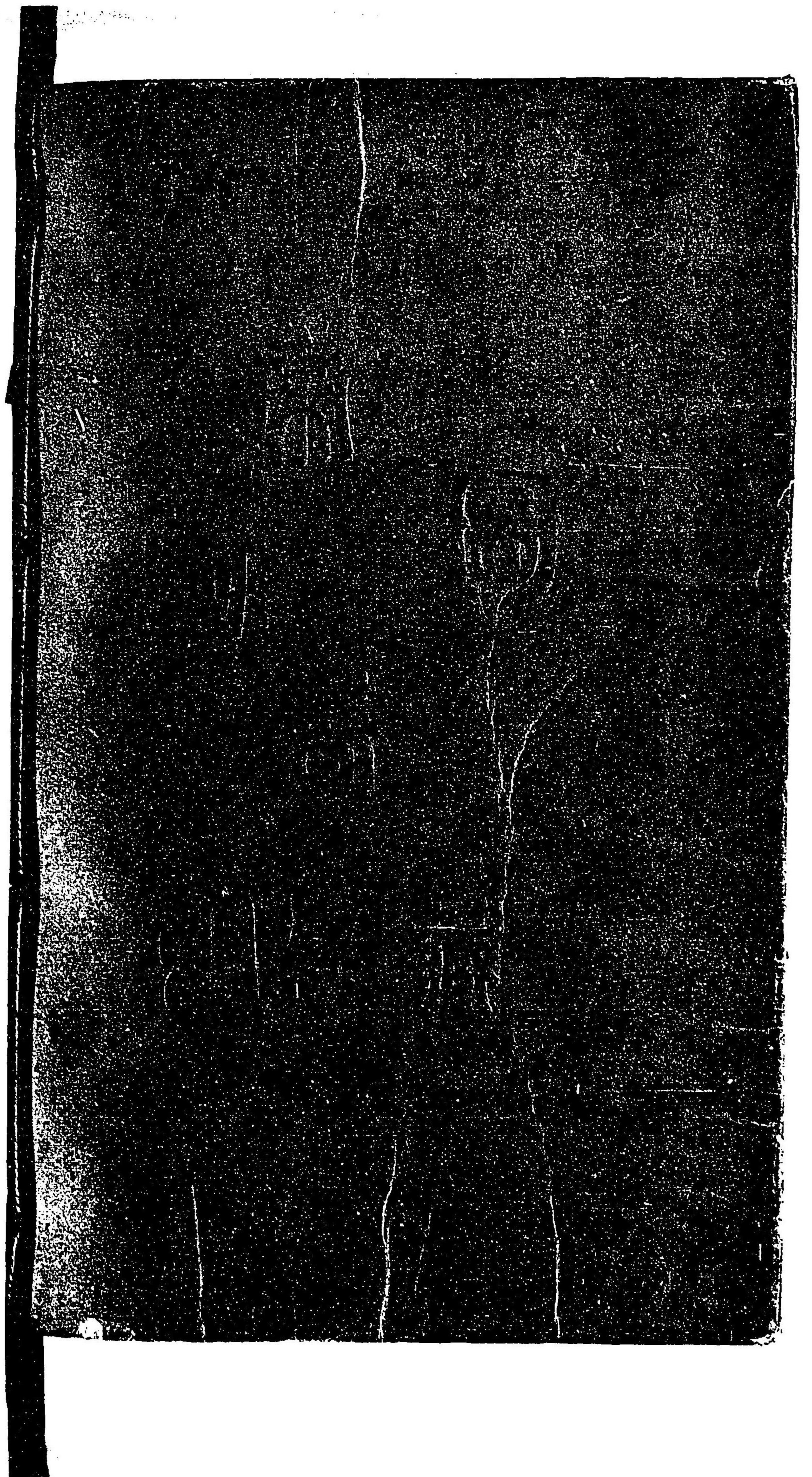
水島貫之

熊本縣肥後國熊本區
北新坪井町住

熊本縣
城堀端町前

活版舎鏤版

138
13
170



138

170

肥

後

國

志

八